

矢沢地域振興会 令和 3 年度収支決算書 (前号からの続き)

2 矢沢振興センター受託管理 特別会計収支決算書

(3) 積立金収支 (自主財源) 単位:円

科目	本年度決算額	摘要
期首積立金	1,265,000	国道改対協 215,381 その他 1,049,619
当期		
増減		
繰出	0	
繰入	200,000	
期末積立金	1,465,000	1,465,000

(1) 収入 単位:円

科目	本年度決算額	摘要
管理委託料	6,107,000	花巻市より
雑収入	12	貯金利息
繰入	0	
繰越金	375	
計	6,107,387	

(2) 支出 単位:円

科目	本年度決算額	摘要
人件費	5,190,777	
・給与	3,842,400	事務局員 2 人分
・諸手当	386,610	事務局員 2 人分
・賃金	240,000	管理
・福祉厚生費	721,767	事務局員 2 人分
・その他	0	
運営費	916,239	
・消耗品費	162,907	コロナ対策用品等
・燃料費	181,951	灯油代
・光熱水費	32,946	ガス代
・修繕費	14,300	ストーブ修理
・通信費	0	一般会計で対応
・印刷製本費	0	
・委託料	287,640	清掃・除雪費
・その他	236,495	新聞代、PC 購入
計	6,107,016	残金 371 円

3 矢沢地区社会体育館受託管理 特別会計収支決算書

(1) 収入 単位:円

科目	本年度決算	摘要
管理委託料	432,000	花巻市より
雑収入	0	
繰入	0	
繰越金	656	
計	432,656	

(2) 支出 単位:円

科目	本年度決算	摘要
管理費	311,400	
・賃金	32,000	管理
・委託費	279,400	管理・清掃
運営費	120,624	
・消耗品	60,124	
・燃料費	0	
・修繕費	0	
・その他	60,500	ストーブ購入
計	432,024	残額 632 円

移動図書館車巡回日程(ぎんが号)

6/8 (水)	団地会館	13:30~13:50
6/15 (水)	高木観音	09:20~09:50
6/15 (水)	振興センター	10:05~10:35
6/15 (水)	やさわこども園	10:50~11:20



クレマチス



うめ

第34回 矢沢地区グラウンドゴルフ大会

日時：6月18日(土) 08時30分～正午

(小雨決行) (受付：8時～8時30分)

☂ 雨天延期の場合 予備日：7月2日(土)

□ 趣 旨：矢沢地区住民のふれあい交流を目的とし、みんなが参加できるスポーツ大会を開催し、明るい地域づくりを推進する。

□ 主 催：矢沢地区自治公民館連絡協議会

□ 会 場：日居城野運動公園 芝生広場 (A・B)

□ 主 催：矢沢地区自治公民館連絡協議会

□ 参加費：1人100円

□ 申 込：参加費を添えて、各地区の自治公民館長、または振興センター(☎23-2171)のいずれかへお申し込みください。

□ 締 切：6月9日(木)

□ その他：クラブ・ボールは、当日先着順で貸出しますが、数に限りがありますので、ご容赦願います。

また、当日欠場による参加料の払い戻しは致しませんのでご了解願います。



昨年の大会の様様

● 令和4年度定期健康診査日程

今年度の定期健康診査は、いずれも矢沢振興センターが会場となります。

9時以降に開場し検温と体調チェックを行いますので、開場前にお越しの際は外でお待ちいただくことがあります。

検査日程と時間は次のとおりです。

月 日	時 間
・ 6月13日(月)	いずれの日も
・ 6月14日(火)	午前
・ 6月16日(木)	09時30分～11時00分
・ 6月17日(金)	午後
・ 6月20日(月)	13時00分～15時00分
・ 6月22日(水)	です。
・ 6月29日(水)	なお、詳細については、「広報はなまき」をご覧ください。
・ 6月30日(木)	



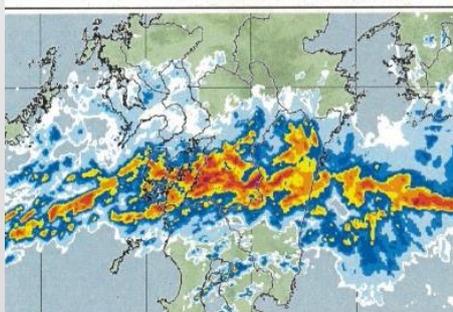
アメリカミズギ

【事務局員のつぶやき】(線状降水帯予測、6月1日から11地域を対象に開始されます!)

近年、線状降水帯による大雨によって毎年のように甚大な被害が引き起こされています。岩手県でも平成25年8月9日、雫石、矢巾、紫波、大迫のラインで線状降水帯が原因で、僅か6時間くらいで200mmの大雨となり河川の氾濫、浸水、土砂災害などの甚大な被害をもたらされたことは記憶に新しいところです。この様に大きな被害をもたらす線状降水帯の発生については、事前に予測することは困難でしたが、気象庁では線状降水帯予測精度向上を喫緊の課題と位置づけ、産学官連携で世界最高レベルの技術を活用し、船舶GNSS(全球測位衛星システム)による洋上の水蒸気観測等の観測強化、大学等の研究機関とも連携した予報モデルの開発を前倒しで進めています。その第一歩として、気象庁では、早めの避難につなげるため、6月1日から線状降水帯による大雨の可能性を予測し、まずは「東北」や「九州北部」など11ブロックの地域を対象に半日前からの情報提供を開始します。例えば「東北地方では、6月15日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります」などの情報が発表され、この情報が発表された場合には線状降水帯の発生が無くても危険な気象状況であることには変わりはありません。

今後、各機関との連携強化、スーパーコンピュータ「富岳」を活用して、開発中の予報モデルのリアルタイムシュミレーション実験の実施などを通じ、予測精度の向上を図り、令和6年度には県単位さらに将来的には市町村単位での情報提供を目指しています。

半日前からの予測情報の提供



水蒸気観測の強化と集中観測の実施

- 観測機器の整備を強化・前倒し
- 産学官連携を活用し、大学や研究機関との連携による集中観測を実施

